

回復した高卒採用は今後も持続するか
90年代以降の企業の採用行動の分析から

佐藤 博樹
東京大学

佐野 嘉秀
東京大学

原 ひろみ
労働政策研究・研修機構

< 要旨 >

本稿の課題は、企業個票データを用いて、企業の高卒者に対する育成方針に焦点をあて、高卒労働需要の減退期にあたる1990年代前半から2004年までの時期を通じて高卒者を継続的に新卒採用してきた企業の特徴を明らかにすることにある。計量分析によれば、企業の経営状況や業務内容の高度化の程度、高卒新卒者以外の人材活用状況といった条件をコントロールしても、長期的な視点から高卒者を積極的に育成する方針をとる企業ほど、90年代前半以降の期間を通じて高卒者を新卒採用し続ける傾向にある。また、クロス表分析から、そうした企業では、長期的な人材育成のため高卒者を正社員として新卒採用し続けるインセンティブが強く働いてきたこと、ただし、採用できる高卒の新卒者の質が低下した判断すると、それが高卒者の新卒採用をやめる理由になることが明らかにされた。これらの結果を踏まえると、高卒者を継続的に新卒採用してきた企業に今後も高卒採用を継続させるためには、企業の人材育成をサポートするような政策や、高卒者の質を維持・向上させていく高等学校での取り組みが有効と考えられる。